

平面と直線の交点の位置ベクトル

★知識の整理★

【1】平面上の点の位置ベクトル (平面)

2つのベクトルがあれば、それと同じ平面上にあるどんな点も、その2つのベクトルを使って表すことができます。

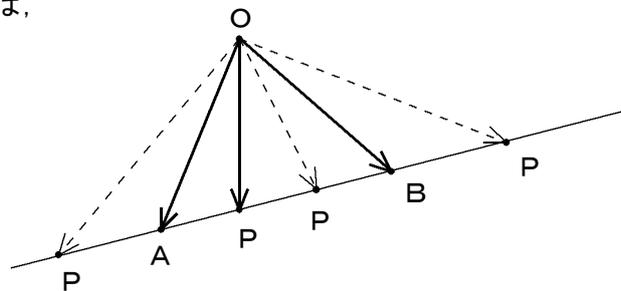
これを式で表すと、次のようになります。

$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} \quad \leftarrow \text{意味: } \vec{OA} \text{ を何倍かし, } \vec{OB} \text{ を何倍かして足すと, } \vec{OP} \text{ となる。}$$

特に、「点Pが直線AB上にある」ときは、

$$s + t = 1 \quad \leftarrow \text{超重要!}$$

となります。



【2】平面ABC上の点の位置ベクトル (空間)

上の【1】と同じことが、空間でもいえます。

たとえば、空間上に、 \vec{OA} , \vec{OB} , \vec{OC} があれば、空間のどんな点 (\vec{OP}) も、その3つのベクトルを使って表すことができます。

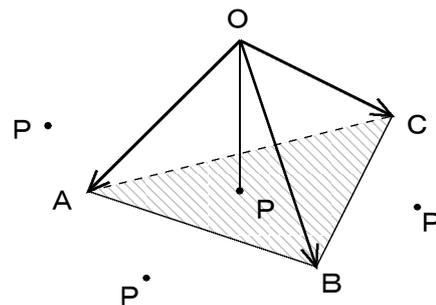
これを式で表すと、次のようになります。

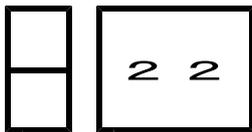
$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} + u\vec{OC}$$

特に、「点Pが平面ABC上にある」ときは、

$$s + t + u = 1 \quad \leftarrow \text{超重要!}$$

となります。





第3章 空間座標とベクトル 1・空間のベクトル

4 位置ベクトル (その3)

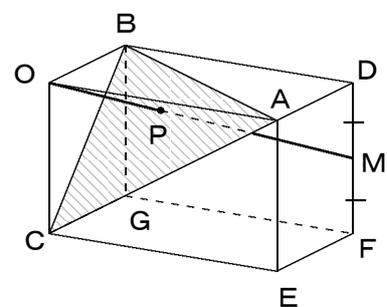
(2/6) ■ 同じ平面上にある点② ■

◇ 《平面と直線の交点の位置ベクトル》 **学力化** → /

★解法の技術★

右の図のような直方体において、辺DFの中点をM、線分OMと平面ABCの交点をPとする。

$\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とするとき、 \vec{OP} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表しなさい。



【考え方】 「交点の位置ベクトル 2通りに表し係数比較」に沿って考える。

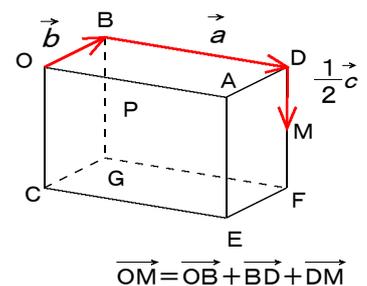
- 1 点Pは直線OM上の点なので、 $\vec{OP} = k \vec{OM}$ (k は実数)と表される。
 \vec{OM} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表す。…①
- 2 点Pは平面ABC上にあるので、
 $\vec{OP} = s \vec{OA} + t \vec{OB} + u \vec{OC}$, $s + t + u = 1$ (係数の和が1)である。
 \vec{OA} , \vec{OB} , \vec{OC} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表す。…②
- 3 ①, ②の係数を比較することで k の値を求める。

[答 案]

1 (共線条件を示す)

点Pは直線OM上の点なので、 k を实数として

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= k \vec{OM} && \leftarrow \text{共線条件} \\ &= k (\vec{OB} + \vec{BD} + \vec{DM}) && \leftarrow \vec{OM} \text{ を } \vec{a}, \vec{b}, \vec{c} \text{ で表せるように分解する} \\ &= k (\vec{b} + \vec{a} + \frac{1}{2} \vec{c}) \\ &= k \vec{a} + k \vec{b} + \frac{1}{2} k \vec{c} \quad \dots \text{①} \end{aligned}$$



2 (共面条件を示す)

また、点Pは平面ABC上にあるので、

$$\vec{OP} = s \vec{a} + t \vec{b} + u \vec{c}, \quad s + t + u = 1 \quad \dots \text{②} \quad \leftarrow \text{共面条件}$$

である。

3 (係数を比較し、 k の値を求める)

$$\text{①, ②より, } k + k + \frac{1}{2} k = 1$$

$$\frac{5}{2} k = 1 \text{ より, } k = \frac{2}{5} \quad \dots \text{③}$$

◀①と②の係数を比べて

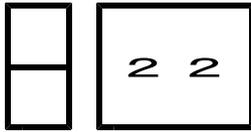
$$\begin{cases} k = s, k = t, \frac{1}{2} k = u \\ s + t + u = 1 \end{cases}$$

より,

$$k + k + \frac{1}{2} k = 1$$

4 (答をまとめる)

$$\text{③を①に代入して, } \vec{OP} = \frac{2}{5} \vec{a} + \frac{2}{5} \vec{b} + \frac{1}{5} \vec{c}$$



第3章 空間座標とベクトル 1・空間のベクトル

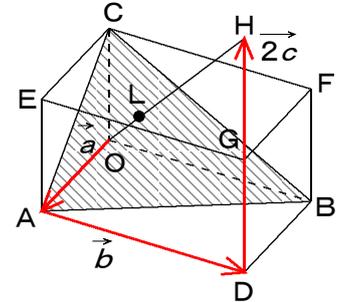
4 位置ベクトル (その3)

(3/6) ■ 同じ平面上にある点② ■

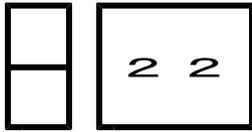
◇ 《平面と直線の交点の位置ベクトル》 **学力化** → / ,

----- ★理解のチェック★ -----

正六面体 $OADB-CEGF$ において、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とする。辺 DG の延長上に $\vec{DG} = \vec{GH}$ となる点 H をとる。直線 OH と平面 ABC の交点を L とするとき、 \vec{OL} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表しなさい。



[答 案]



第3章 空間座標とベクトル 1・空間のベクトル

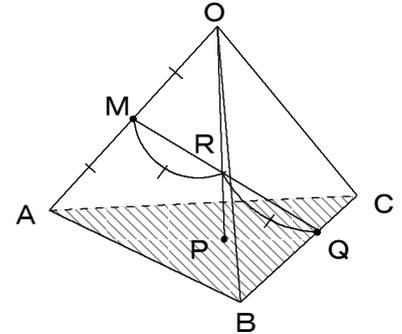
4 位置ベクトル (その3)

(5/6) ■ 同じ平面上にある点② ■

◇ 《平面と直線の交点の位置ベクトル》 **学力化** → /

★演習★【2】

四面体 $OABC$ の辺 OA の中点を M ，辺 BC を $2:1$ に内分する点を Q ，線分 MQ の中点を R とし，直線 OR と平面 ABC の交点を P とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ， $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ， $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とするとき， \overrightarrow{OP} を \vec{a} ， \vec{b} ， \vec{c} を用いて表しなさい。



[答 案]

1 (共線条件を示す)

点 P は直線 OR 上の点なので， k を実数として

(次のページへつづく) ↗

□ □ 【空間のベクトル No. 22 (5/6)】 - 〈2枚目/2枚〉

↗ (前のページからのつづき)

2 (共面条件を示す)

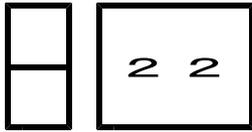
また、点Pは平面ABC上にあるので、

3 (係数を比較し、kの値を求める)

①と②の係数を比較して、

4 (答をまとめる)

③を①に代入して、



第3章 空間座標とベクトル 1・空間のベクトル

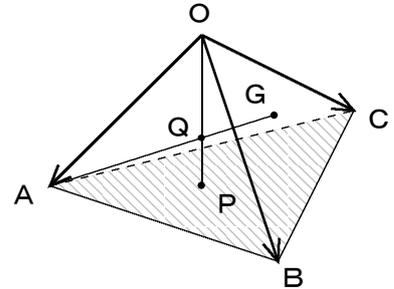
4 位置ベクトル (その3)

(6/6) ■ 同じ平面上にある点② ■

◇ 《平面と直線の交点の位置ベクトル》 **学力化** → / ,

★演習★【3】

四面体 $OABC$ において、 $\triangle OBC$ の重心を G 、線分 AG の中点を Q とし、直線 OQ と平面 ABC の交点を P とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とするとき、 \overrightarrow{OP} を \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} を用いて表しなさい。



[答 案]